

支援者が見立てるツール 使い方マニュアル

令和7年(2025年)3月
兵庫県 企画部 地域振興課

目次

1. 支援者が見立てるツールの目的
2. 支援者が見立てるツールについて
3. 集落の見るべきポイント集・集落のパターン分け
4. 集落の見立てカルテ

はじめに ー集落のワガゴト化ツールとはー

支援者が見立てるツールとは

どんなツール？

支援者が集落の状況を的確に見立て、必要な支援策を検討するツール

誰が使うの？

地域づくり支援者の皆さん

例えば…市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方など

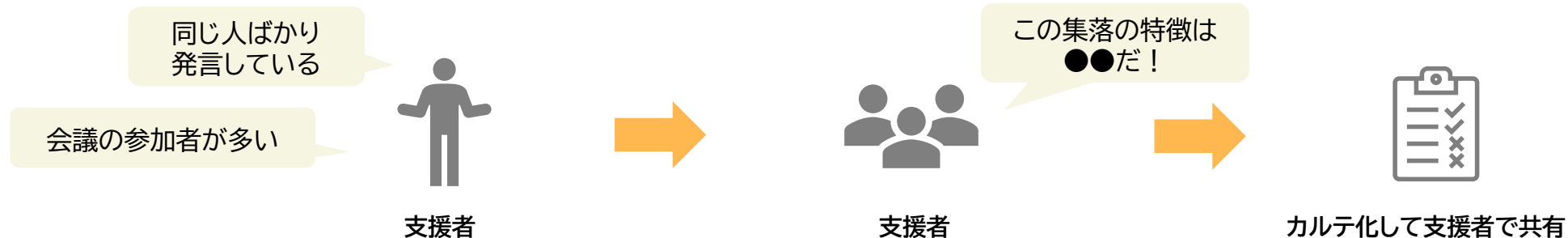
いつ使うの？

例えば…

【支援者どうして集落の状況を共有したい時】

様々なシーンで集落の状況を把握

複数人で話し合っ集落を見立て、所感等をカルテ化



どうやって
使うの？

「集落の見るべきポイント集」を参考に、
住民の話し合いや行事など様々な場面で、集落の雰囲気や状況を読み取り、
複数人の支援者で報告・共有し、「集落の見立てカルテ」として保存

1. 支援者が見立てるツールの目的

●支援者が見立てるツールの目的

支援者が集落の現状を的確に見立て、必要な支援策を検討するものです。

1.「集落の現状を的確に見立てる(把握する)こと」をサポート

- 集落の将来を考えていく上で、支援者は「どのような雰囲気集落か」、「新しい取組や動きは起こせそうか」などを、さまざまな場面(シーン)から把握することが求められます。
- これらは支援者の経験や感覚で行われることが多いですが、その指針として参考項目を示しながら、「集落の見立て」をサポートします。

2.「集落の今後の支援活動につなげること」をサポート

- 「現在の地域の立ち位置(=集落の見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、それぞれの集落の状況に応じた、きめ細やかな支援活動につなげることをサポートします。

3.「支援者間の対話の場づくり」をサポート

- 「集落の見立て」は、支援者間や集落の状況を知らないメンバーに共有するツールとして「場づくり」にも活用できます。



POINT!

「支援者が見立てるツール」は、集落の主体的な取組を促すことを手助けするものです。

※集落に直接的に何かを起こさせるものではありません

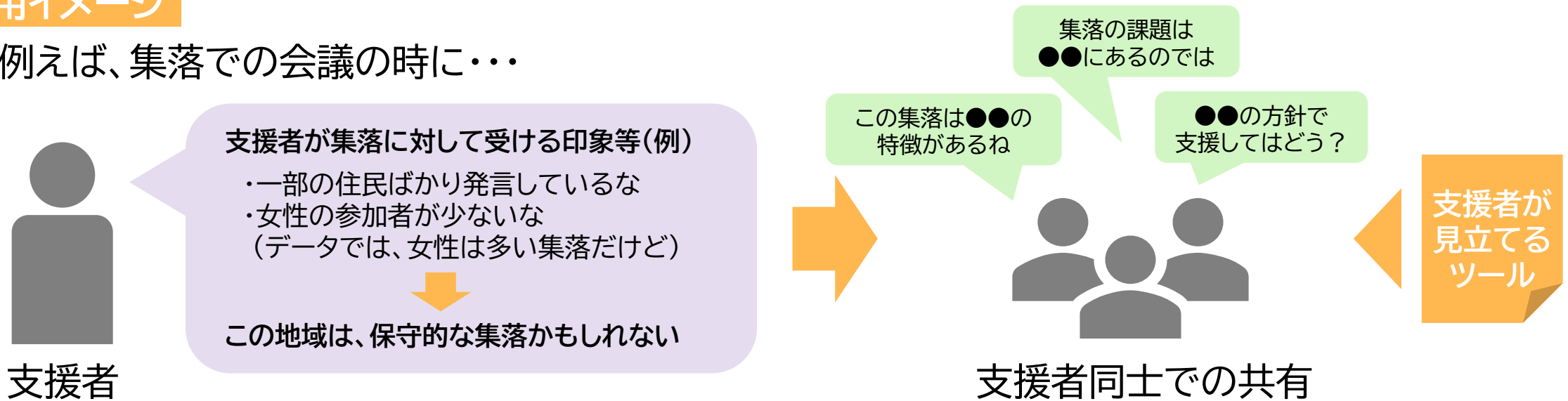
2. 支援者が見立てるツールについて

● 支援者が見立てるツールの活用シーン

集落の支援策を検討するためには、集落の現状を的確に見立てて、支援者同士で共有することが重要です。そのため、会議などの場面(シーン)で、**支援者が考えていることを言語化し、共通言語として支援者同士での共有をサポート**します。

活用イメージ

例えば、集落での会議の時に...



※その他にも、集落の現状を見立てる場面(シーン)はさまざまあります

- 役員等との打ち合わせ時
- 集落の視察時(訪問時)
- 住民の話し合い時(会合・寄り合い時)
- 総会資料等の確認時
- イベント・行事の参加時

●支援者が見立てるツールとは

「支援者が見立てるツール」は、「集落の見立てカルテ」を指します。

また、「集落の見立てカルテ」を作成するために、集落の見るべき視点やポイントの指針として「**集落の見るべきポイント集**」があります。

支援者が見立てるツール

集落の見立てカルテ

支援者が
作成するもの

- ・集落の現状を見立てる場面(シーン)で気付いた所感を、**複数人の支援者で共有し、カルテとして保存。**
- ・「現在の地域の立ち位置(見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、そのために必要な支援を検討する。
- ・必要に応じて、集落のタイプ分けを行う。

参考

[illegible]

集落の見るべきポイント集

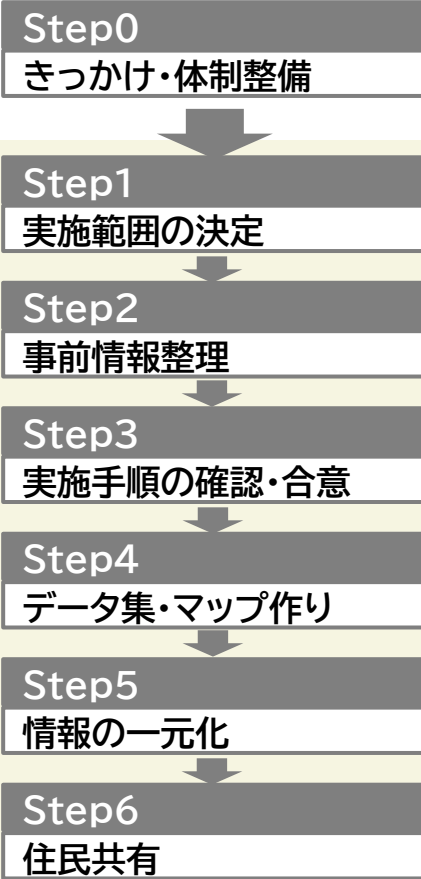
- ・集落に入る際に、支援者として見るべき視点・ポイントを示したもの。
- ・住民の話し合いや行事の様子などをもとに、集落の状況を把握し、「**集落や支援方法の見立てを支援者が考える際に参考**」とする。

[illegible]

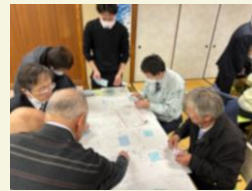
● 支援者が見立てるツールの活用プロセス

集落の将来を考えるプロセスと並行して、集落の現状を見立てていきます

集落の将来を考えるプロセス



「ワガゴト化ツール」
を活用



集落マップの作成の様子
(南あわじ市)



客観的な情報

集落の現状を見立てるプロセス

集落の見立てカルテ

様々なシーンで集落の状況を把握

- 集落視察時
- イベント・行事の参加時
- 役員等との打ち合わせ時
- 総会資料等の確認時
- 地域住民の話し合い時

「支援者が見立てるツール」
を活用

集落の見るべきポイント集

会長ばかりしゃべってる

会議の参加者が多い

資料が整理されている

支援者

支援者が複数人で話し合っ集落を見立て、所感等をカルテ化する

参考にする

この集落は●●の
特徴があるね

集落の課題は
●●にあるのでは

●●の方針で
支援してはどう？

支援者

項目	内容
集落の現状	集落の現状を把握するための情報
課題	集落の課題を把握するための情報
方針	集落の方針を把握するための情報
支援	集落の支援を把握するための情報

カルテ化して支援者で共有

課題整理・
集落ビジョン等の検討

3. 集落の見るべきポイント集・集落のパターン分け

●集落の見るべきポイント集とは

「集落の見るべきポイント集」は、把握項目ごとに集落を見立てるポイントを例示し、集落を見立てることをサポートする指針です。

「集落を見立てる」にあたって把握する項目

※下記4項目ごとに「見るべきポイント」を記載



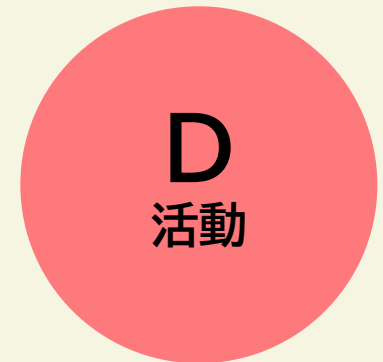
- 様々な世代・性別が交流しているか
- 人材がいるか



- 情報が共有されているか
- 危機意識が共有されているか



- チームワークがあるか
- 各種団体が一体的に動いているか

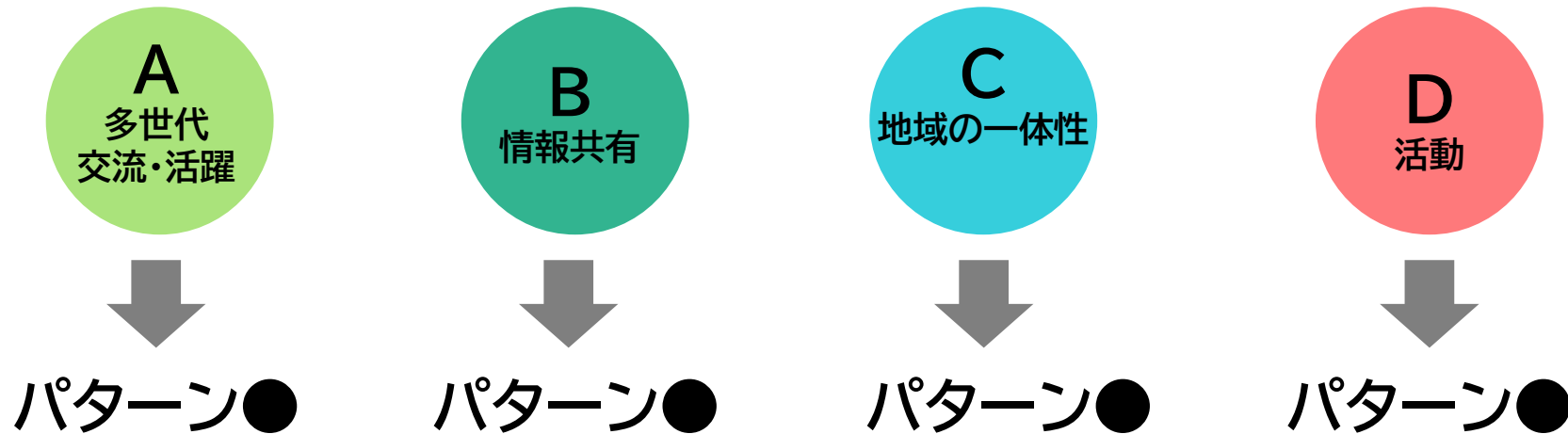


- 地域活動が積極的に行われているか
- 外部の団体等と連携しているか

※集落の規模・状況により、把握すべき項目は変わります。

●集落のパターン分け

支援者どうしで共通の認識を持つために、「集落の見るべきポイント集」で把握した内容をもとに、簡単なパターン分け(共通言語化)を行います。



- 集落のパターン分けは、話し合いを円滑にするためのものです。パターン分けをすることが目的ではありません。
- パターン分けは、支援者どうしの認識共有のために活用するものです。住民の方への開示は想定していません。
- パターンは、必ずしも一つに絞る必要はなく、地域特性に応じて、「〇〇型と〇〇型の中間」や「新たなパターンを作ること」も可能です。
- A～Dの項目は、順番通りではなくとも、議論しやすい項目から検討しても構いません。

A 多世代交流・活躍

中項目	小項目（見るべき点、判断する基準の例）	把握するタイミング				
		役員との 会話	会議・ 話し合い 時	資料 チラシ	イベント 行事	集落視察
①役員の活躍	役員が積極的に動いている	○	○		○	
	役員でない住民の方が地域の活動を積極的に取り組んでいる		○		○	○
	役員が同じ顔ぶれで固定化されていない	○				
	役員の発言に前向きな発言が多い	○	○			
②会議の雰囲気	集落の住民の参加率が高い		○			
	様々な世代が参加する、女性の参加が多い		○			
	★様々な世代の参加者が自由に発言している		○			
③世代ごとの活動	年配の方(60代以上)中心に地域活動を行っている		○		○	
	次を担う世代(40代から60代)中心に地域活動を行っている		○		○	
	若い世代(20代から40代)中心に地域活動を行っている		○		○	
	★未成年の居場所、活動がある、未成年が生き生きしている		○		○	○
	★若い世代のイベントを年配者が見守っている(邪魔しない)		○		○	
	★性別に関係なく、多様な方々が活躍している		○		○	
	★様々な世代が協力して地域活動を行っている		○		○	

A 多世代交流・活躍

中項目	小項目（見るべき点、判断する基準の例）	把握するタイミング				
		役員との 会話	会議・ 話し合い 時	資料 チラシ	イベント 行事	集落視察
④人材	★他出子(集落から転出した子どもなど)などが地域活動に参加・協力している	○	○		○	
	10年後の当事者が使命感を持って活動している	○	○		○	
	★地域外の方が地域活動・イベントに協力している	○	○		○	
	★事務を担う担当者がある	○	○		○	
⑤意思決定	★会議においてみんなで話し合いながら、物事を決めている		○			
	役員がトップダウン的に物事を決めている		○			
	★会議にいない人にも配慮して、物事を決めている		○			
	★話し合いがもめやすく、物事が決まりにくい		○			

★は、特に抑えるべきポイント

A 多世代交流・活躍

1	役員活躍型	役持ちの方が中心となって動いている (役持ちの方だけが動いているケースも含む)
2	全員参加型	さまざまな世代の方が一緒に動いている
3	高齢者主導型	年配の方(60代以上)が主に活動している 次を担う世代(40代から60代)がいない・育っていない
4	世代交代型	次を担う世代(40代から60代)が主に活動している
5	外部巻き込み型	他出子(集落から転出した子どもなど)や外部の人材との関わりが盛んである

B 情報共有

中項目	小項目(見るべき点、判断する基準の例)	把握するタイミング				
		役員との 会話	会議・ 話し合い 時	資料 チラシ	イベント 行事	集落視察
①資料	会議やイベントのチラシ・広報が呼びたい人に向けてきちんと作成されている		○	○	○	○
	★総会の資料・帳簿がきちんと作成・保存されている	○	○	○		
	★事業計画や事業報告がきちんと作成・保存されている	○	○			
②引き継ぎ	★いままでの活動を現役員が理解している	○				
	★資料が整理され、情報が引き継がれている	○				
	★集落の情報を現役員が理解している	○				
③情報共有	★会議やイベントの存在・内容を集落の方が大体把握している	○	○		○	
	回覧板や掲示板が機能している	○	○			○
	★周辺の住民の状況を地域の方が把握している		○			
	周辺の住民の状況を把握している情報通の方がいる		○			
④機材	プロジェクターなど、会議に必要な機材が揃っている	○	○			
	ネット回線が整備されている	○	○			
	パソコン等の操作ができる人が多い	○	○			
	SNSやライン等を使った情報共有が図れる	○	○			

★は、特に抑えるべきポイント

B 情報共有

1	ツーツー型	地域の情報・昔の取組等を大体の方が把握し、共有されている ライン・回覧板などで情報共有が盛んにおこなわれている
2	特定人材共有型	役持ちなど特定の人で情報が共有されているものの、地域の方に十分に共有されていない
3	秘密主義型	資料が残っておらず、過去の情報が判らない 地域の情報を把握していない方が多い

C 地域の一体性

中項目	小項目（見るべき点、判断する基準の例）	把握するタイミング				
		役員との 会話	会議・ 話し合い 時	資料 チラシ	イベント 行事	集落視察
①役員間の コミュニケーション	役員の誰かが話しているとき、周りは頷きながら聞いている	○				
	★普段から役員間でコミュニケーションをとっている	○				
②地域住民の関係	★会議前にワイワイと雑談で盛り上がっている		○			
	★会議で、参加者がまんべんなく会話している		○			
	性別・年齢に関係なく、まとまりを持って活動している		○			
	★世代ごとの想いや考えが、なんとなく共有・把握されている		○			
③ジブンゴト化	非農家の方が農地などに問題意識や関心を持っている		○			
	★非農家の方が農業関係者の活動（草刈り・水利）などに参加している		○		○	
	★関わりが少ない組織や取組についても、問題意識や関心がある （老人会や森林組合の話など）		○			
④開発地との関係	集落内にある開発地・マンション等の住民と連携して活動している	○	○			
	集落内にある開発地・マンション等の住民は、地域活動に入っていない （入らせない）	○	○			
	★集落内にある開発地・マンション等の住民との取り決めがある、話し合いをする 場所がある	○	○			

★は、特に抑えるべきポイント

C 地域の一体性

1	孤軍奮闘型	特定の個人が活動しているが周辺はついてきていない ワンマンな場合もある
2	サークル型	農業者・福祉関係など特定のグループのみでまとまり活動している 他のグループ・団体等との主体的な連携まで広がっていない
3	バラバラ型	活動の方向性がバラバラ、活動に反対する人がいるなど、一体性に欠ける 活動があまりできない、続かない
4	一致団結型	地域の方が一丸で活動している 他のグループ・団体等との主体的な連携まで広がっている

D 活動

中項目	小項目（見るべき点、判断する基準の例）	把握するタイミング				
		役員との 会話	会議・ 話し合い 時	資料 チラシ	イベント 行事	集落視察
①共同作業	★道路沿い等の草刈りが丁寧に行われている					○
	★公民館などの公共施設が丁寧に管理されている					○
	★祭礼などの行事が大切に引き継がれている	○	○		○	
②地域活動の継続性	★地域の人々が地域活動に楽しそうに参加している				○	
	イベントに地域の団体(社協など)が積極的に協力している				○	
	★地域活動に協力してくれる外部人材がいる				○	
	気楽に参加できるような環境が整っている		○		○	
	★新しいイベントや取組が積極的に行われている		○		○	
	★既存のイベントや取組の見直しの話合いがなされている		○		○	
③自治会と地域の団体 (社協など)の連携	地域の団体が、自治会の会議に参加している		○			
	自治会の取組や活動の方針に地域の団体関与する機会がある		○		○	

★は、特に抑えるべきポイント

D 活動

1	ノリノリ型	住民が楽しみながら活動に取り組む 新しい取組も積極的に取り組む
2	なんとか継続型	恒例行事などを、続けたいといけないう意思で協力しながら続けている 取組の見直しなどが行われていない、まだできていない
3	見直し型	積極的に取組を見直したり省力化を図りながら、無理のない範囲で活動を 続けている
4	無風	何も活動はしていない・できていない

4. 集落の見立てカルテ

●集落の見立てカルテとは

「集落の見立てカルテ」は、集落の現状を見立てる場面(シーン)において気付いた所感を、複数人の支援者でまとめるものです(コミュニケーションのきっかけとするもの)。

支援者同士の話し合いにより、「集落の見立てカルテ」を作成

● INPUT(支援者各自で集落の見立て)

- A 多世代交流

⇒ ○○パターン
- B 人材

⇒ ○○パターン
- C 情報共有

⇒ ○○パターン
- D 地域の一体性

⇒ ○○パターン



● OUTPUT(集落の見立てカルテ)

把握項目	詳細
見立てた概要	日付、作成者
集落の特徴	相談のきっかけ、課題、強み、特殊事情等
集落の所見	A～Dごとのタイプ分け、所見、総評、確認すべき事項
支援の方針	目指すこと、支援方針

2024年度集落見立てカルテ

集落名	支援者	作成日	作成場所
〇〇町 〇〇村	〇〇 〇〇	〇〇/〇〇/〇〇	〇〇 〇〇
集落の現状	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
課題	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
強み	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
総評	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
確認すべき事項	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇
支援の方針	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇	〇〇 〇〇

●集落の見立てカルテの注意点

「集落の見立てカルテ」は、あくまで話し合いを円滑に進めるための集落の基本的な情報の1つです。そのため、以下の点に注意が必要です。

- 集落の見立ての結果は、地域の優位性を問うものではありません。
例えば、「役員がワンマンで女性が活躍できていない」と見立てたとしても、それ自体の良し悪しを判断するものではありません。
- 一度(1つの機会)で判断できるものではなく、会話・話し合いの時やイベント・行事ごとなど様々な場面において、何度も地域の状況を見ながら時間をかけて判断する必要があります。
- 「集落の見立てカルテ」の結果だけが独り歩きしないように留意が必要です。見立てた結果がすべてではなく、結果を踏まえて実際に集落に足を運んで見比べるなど、随時、「集落の見立てカルテ」の見直しを行うことが重要です。

●「集落の見立てカルテ」のイメージ

「集落の見立てカルテ」の様式

〇〇市集落の見立てカルテ

集落名	●●集落	作成者	●●、●●、●●	
		作成日時	令和●年●月●日	
課題 (相談のきっかけ)	(例) 自治会長から高齢化が進み、今後の地域活動が難しくなってきたと相談を受けた。			
集落の状況 (集落の強みや特徴、 特殊事情があれば記載)	(例) 中山間地域に位置する農村集落。 (ネガティブな話ばかりにならないように強みや特徴を記載、また「地区内に開発された分譲地がある」など、特殊な事情があるときはその旨を記載)			
1) 集落パターン				
集落パターン	A 多世代交流・活躍 (例) 役員主導型	B 情報共有 (例) 特定人材共有型	C 地域の一体性 (例) パラバラ型	D 活動 (例) なんとか継続型
所見	(例) 役員は頑張っているが、 他がついてきていない	(例) 役員間のみで話し合いが 行われている	(例) 行事の参加者・協力者が 固定されている	(例) 活動に疲弊感がみられ、 継続性が危ぶまれる
総評	(例) 役員のなり手が少なく、固定化している。役員に危機意識はあるが、地域住民に広く浸透していない。人材不足で新たな取り組みが進みにくい。			
確認事項	(例) 〇〇のような状況で、〇〇と見立てたが、まだ、集落の一部しか見られていないため、正確ではない。			
2) 支援の方針				
集落のありたい姿	(例) 50年後も住み続けられる環境を維持する			
支援の方針 (確認すべきこと等)	(例) 地域内での対話の場を増やし、課題意識を啓発していく必要がある。外部の人材の受け入れ体制整備など、集落活動の継続性を検討する必要がある。			
(参考)				
集落タイプ	カリスマ頑張り型			
所見	(例) 役員や特定の個人が中心に活動を行っており、地域住民にその活動が広がっていない。役員等の高齢化により、今後の集落活動の存続が危ぶまれる。			



- 支援者の集落への関わり程度により、見立てが異なることがあるため、「誰が・なぜそのように判断したのか」の理由を記載しておくことが大切です。
- 「集落の見立てカルテ」をファイリングすることで、変化の確認や引継ぎに役立ちます。
- 集落を見立てる際は、集落のよいところだけではなく、問題であるところも意識して判断する必要があります。
- できれば多自然地域づくりアドバイザーなどの外部の専門家を交えて、支援の方針を検討しましょう。

●集落の見立てカルテ

(参考)集落のタイプ分けについて

「集落の見立てカルテ」を踏まえて、集落の雰囲気をごっくりととらえるために、必要に応じて集落の特徴を一言で示すタイプ分けを行います。

集落のタイプ分けは、集落に入っている支援者が感覚で判断していた内容を言語化するものです。



POINT!

- 「集落の見立てカルテ」と同様に、タイプ分けをすることが目的ではありません。
- 支援者どうして話し合いながら、集落のタイプ分けを行うことが重要です。
- 理論的になり過ぎず、「集落の見立てカルテ」作成中に感じたことを話し合いながら、タイプ分けをしてください。
- 見立てる際に正確でない場合や不明点があった場合は、そのような状況や情報量をもとに見立てたことを記載してください(「集落の情報量が少ない」、「集落に入った経験が限られていた」など)。

【参考】集落のタイプ分けについて

「集落タイプ」の例を以下に示します。

1	ノリノリ集落	地域住民が新しい取組などを積極的に受け入れ、一体的に活動している集落
2	ヒーロー待望論型	住民に危機感が共有され変化を求めているが、活動が進んでいない集落
3	カリスマ頑張り型	一部のみの住民が活動しているものの、周りからの協力が広がっていない集落
4	群祐割拠型	色々な団体が活動しているが、相互に協力がなされていない(反発し合っている)集落
5	ほがらかのんびり型	住民の危機感が少なく、新しい取組は少ないが、地域住民が協力しながら既存活動は進めている集落
6	無風集落	危機感が薄い・諦観があるなどで、活動があまり行われず、地域住民に前向きな姿勢が見られない集落



POINT!

- 集落タイプが重複することもあります。
- このタイプ分けが全てではありません。集落の状況に応じて新たな集落タイプを作成してください。

(参考)集落での検証事例

南あわじ市（農村型）

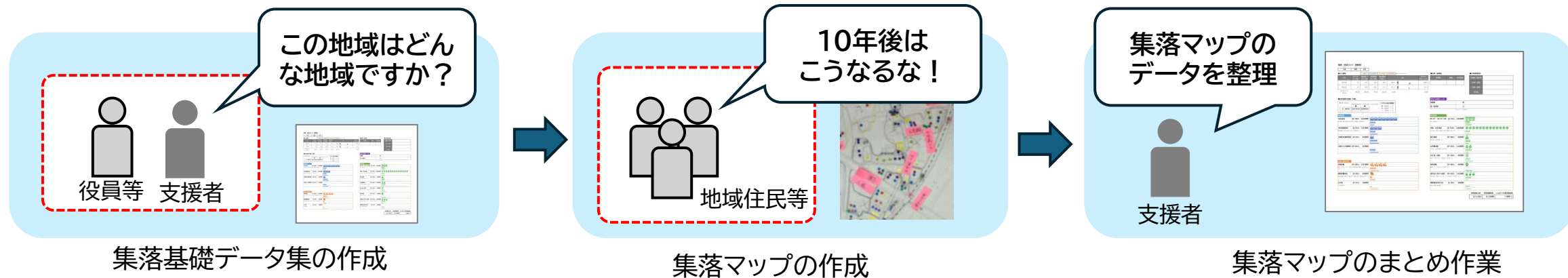
注：

南あわじ市での検証は、2025年2月に、当時検討していたサポートツールを活用し実施したものです。
検証結果を踏まえて、サポートツールの修正等を行っています。

南あわじ市(農村型) 令和7年2月4日(火)14時から16時

① ツール検証の概要

■ ツール検証までの経緯



上記を踏まえて、「支援者が見立てるツール」を活用した振り返り会により、「集落の見立てカルテ」の作成を行った。

■ ツール検証参加者

市農村振興課1名、市市民協働課2名、社会福祉協議会1名、ひょうご農林機構1名

南あわじ市(農村型)

■ ツール検証の流れ

1. 集落マップ作成ワークの振り返り

- ・支援者同士で「集落マップ」作成時に感じた所感を言い合う

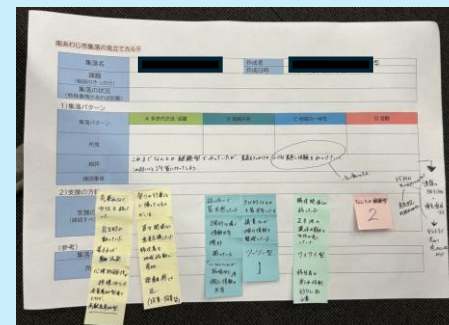


振り返り会の様子

30分程度

2. 「集落の見立てカルテ」の作成

- ・「支援者が見立てるツール」を見ながら、A1模造紙に、集落の見立てを記載する



検証で作成した「見立てカルテ」

40分程度

3. 今後の支援方針についての協議

- ・アドバイザー等も入りながら、今後の集落の支援のあり方を話し合う

20分程度

4. ツール(マニュアル)の検証

- ・上記を踏まえ、ツール(マニュアル)の使い勝手を検証する

30分程度

南あわじ市(農村型)

②検証を通じたツールの所感

良かったこと	・話し合いの場づくりとしてはよい。 ・「振り返り」→「見立てる話し合い」→「カルテの作成」の流れは、意見が自然に出やすくてよかった。 ・「複数の支援者の意見を聴くこと」により、集落の解像度が上がった。 ・「見立てるポイント」が可視化されていたため、分かりやすかった。 ・「見立てたあと(総評を踏まえた支援方針)」の議論がよかった。 ・「型(パターン)」を踏まえてアプローチ方法(支援方針)を決めていくことができたため、行政職員、関係者の対応の質が向上した。
苦労したこと ・気をつけるべきこと	・1回の関わりでは判断できないため、継続的に地域に入らないと難しい。 ・現場を知らずに議論に参加できたことはよい点ではあるが、想像で判断してしまう可能性があるため、使い方によっては危険な側面がある。 ・「集落全体のタイプ分け」を活用しなくても、総評や支援方針は検討できた

※検証結果を踏まえて、サポートツールの修正等を行いました